

2016.1.23

NINJAL国際シンポジウム

# JFL教室環境学習者の言語使用と指導の影響 ー4ヶ月間の縦断・初級作文資料をデータとしてー

韓国：高麗大学校  
曹英南

# Today's Menu

- 韓国人日本語学習者のイ形容詞の誤用例
- 先行研究と本研究の位置づけ、分析資料
- 韓国人日本語学習者のイ形容詞の活用の使用の特徴を提示する。
- 教師によるフィードバックが学習者のイ形容詞の活用の使用にどのように影響しているのかを明らかにする。
- JFL教室指導に応用できる提言をまとめる

# 韓国人日本語学習者の誤用(中級)

[接触場面の自然談話より]

- 「細いじゃないけどー」
- 「いいじゃないです」
- 「あの声優たちは、まー、いいだ、発音がいいだ、からー」
- 「お金がないで」
- いずれもイ形容詞の基本形に添加形式(じゃない、だ、で)を付加した誤用である。

# 誤用の原因

- その原因としては、教室環境で文法項目を提示する際に必要以上に基本形を重視する従来の指導法や教科書の影響が想定される。
- そのため、基本形を活用させることができず、その上、他の品詞の活用方法との混乱まで起ってしまい、上記のような誤用パターンが生じたのではないかと考えられる。

# 先行研究

- 近年、日本語研究においても文、談話、社会、認知といったキーワードに代表される一連の研究が見られるようになった。
- 同様のことは日本語学の分野のみならず、第2言語習得分野についても言える。なかでも日本語学習者の文法の誤用に着目した分析が最も多く、誤用フィードバックに関する研究などがそれに続く。
- その中で、韓国の大学で日本語を学ぶ韓国人学生の作文データを用い、品詞別に誤用分析をした研究が少なくない(鄭:1998、趙他:2002、木下2005など)。

# 木下(2005)

- 韓国の大学で日本語を学んでいる韓国人学生の作文データに見られるイ形容詞の使用に焦点を当て分析を行っている(10人による8回分の作文データ)。
- 分析の結果
  - ◆ 「～たい」、「いい」、「おもしろい」、「難しい」の4語が総出現数の4割近くを占め、それによる使用語の偏重
  - ◆ 否定形(過去否定形を含む)よりも過去形(～いでした)の方で誤用が目立つことなどが明らかになっている。

# 本研究の位置づけ

- しかしながら、大学の教室環境では教師によるフィードバック(誤用チェック)が積極的に行われるため、それらが学習者にどのような影響を及ぼすのかを、さらに踏み込んだ形で体系的に分析する必要がある。
- 18名の学生による実際の作文データを用い、海外の大学という特殊な教室環境が日本語学習者にどのような影響を与えるかを考察する。

# 分析資料

|        |                                                                                                                         |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学習環境   | <ul style="list-style-type: none"><li>▶JFL教室環境(於:韓国の大学環境)</li><li>▶授業期間:2008年9月~12月</li></ul>                           |
| 対象者    | <ul style="list-style-type: none"><li>▶C大学日語日文学科の在学生(主として2年生)対象の専攻科目「会話及び作文1」を受講した18人。</li><li>▶基本的な文法は学習済み</li></ul>   |
| 収集方法   | <ul style="list-style-type: none"><li>▶授業期間(16週)中の3週目頃から学期末まで学生たちに作文ノートを提出させる。</li><li>▶そこに教師が訂正を加え、その週に返却する)</li></ul> |
| 作文のテーマ | 「自己紹介」、「私の部屋」、「私の町」、「私の家族」、「週末」、「手紙」、「私が二人なら」、「私の夢」                                                                     |

# 「わたしの家族」の例示

今から私の家族をしょうかいします。私の家族は母と父とおとうと、いもうとそして私をふくして(→ふくめて)みんな五人です。りょうしんはげんかく(→きびしい)ですがわたしたちにたくさんな(→たくさんの)かんしんを持ちます(→持ってくれます)。ときどきりょうしんが苦勞することを見ればわたしもころろがいたみます。私のいもうとはソウルで学校につとめて(→かよって)います。いもうとはかっぱつだしめいろう(→明るい)です。それから日本にかんしんが多くて日本語の勉強(→漢字誤用)をしています。それでときどきいもうとのたす(→たすけ)をうけてもっと(→あまり)なんなく日本語の勉強(漢字誤用)をできます(→ができます)。末っ子のおとうとは勉強(漢字誤用)をすることよりコンピューターゲームをしたり映畫(→映画)を見ることを(→ことが)もっと好きです。それで(→それでちょっと)おそろしいです(→心配です)。私の家族はなごやかです。そしてたがし(→たがい)をあいして大事に思います。

イ形容詞の活用の誤用のうち形式上の誤用の問題を取り上げる。よって、意味上の誤用(おそろしいです→心配です)や、非用による誤用(嚴格→厳しい、明朗→明るい)は分析対象から除外する。

# イ形容詞の使用の特徴

- 活用形の偏った使用
- 誤用の体系的変異
- 誤用の個別性

# 活用形の偏った使用

- 学習者G:「連体形」のみが8回
- 学習者C:「連用形」が6回、「過去形」が1回

| 形式    | 学習者の数                  |
|-------|------------------------|
| 非用    | 2名                     |
| 1つの形式 | 4名                     |
| 2つの形式 | 7名                     |
| 3つの形式 | 3名                     |
| 4つの形式 | 2名<br>(連体形、連用形、て形、過去形) |

# 誤用の体系的変異

- イ形容詞の活用の誤用のパターンには体系的変異が見られた。
- なかでも、基本形にナ形容詞の活用法(例：やさしいな弟、楽しいに食べる)を付加したケースが1名を除いたすべての学習者に見られた。
- 基本形に活用の操作を加えなかったケース(例：多いくて)も見られた。

⇔これは、基本形を必要以上に強く意識させるなど、文法シラバスに頼りがちなJFL教室環境ならではの、文法への意識過剰による影響ではないかと考えられる。

# 誤用の個別性

- イ形容詞の活用の誤用には個人差が存在。
- 2名の学習者に「ユニット形成のストラテジー」(迫田:2001)が見られた。
  - ▶ 学習者A: 正用(「うまくなる」、「親しくなりたい」)  
誤用(「細かい言う」と)
  - ▶ 学習者R: 正用(「大きい岩」、「大きい都市」)  
誤用(「難しいな主題」)

- これは、初級学習者ならではの限られたインプットや不安定な文法知識によるもの。
- 既知の形容詞は正しく活用させることができても、よく知らない形容詞の場合はそれができない。

# JFL教室環境の指導の影響

- 教師によるフィードバックで正用に変わる場合
- 教師によるフィードバックが気づきを促した場合
- 教師によるフィードバックの効果が可視化されない場合

# 教師によるフィードバックで正用に変わる場合

- 「学習者の誤用」→「教師のフィードバック」→「学習者の正用」、のような理想的な学習パターンは10名に見られた。
- 内訳としては、連用形が4名、連体形が4名、テ形が3名である。
- 特に、1つの作文の中で正用と誤用が混在するような学習者の場合、教師のフィードバックのおかげで正用へと変わる確率が高かった。

# 学習者Aの誤用例と正用例

- 3回目 : ・大きい都市  
・大きい岩  
・難しいな主題(→~~難しい~~)
- 4回目 : ・いい部分  
・うらやましい部分
- 5回目 : ・おいしい物
- 8回目 : ・小さい頃  
・難しいこと

# 学習者Eの誤用例と正用例

- 4回目 :
  - ・ やさしい弟
  - ・ やさしい **な** 弟 (→ やさしい)
  - ・ あたたかいことば
- 7回目 :
  - ・ おさない頃
  - ・ 短い時間
  - ・ いい思い出
- 8回目 :
  - ・ いい公演

# 教師によるフィードバックが気づきを促した場合

- 教師によるフィードバックが過剰一般化されてしまい、他の活用法にも誤って適用され、誤用を招くケースが学習者3名に見られた。
- [学習者Jの例]
  - 2回目：化粧台の上に多い(→多くの)化粧品があります。
  - 3回目：カナダはとても大きくの(→大きい)国です。  
普遍的でカナダは天気が寒くの(→寒い)所です。
  - 5回目：少し疲れましたがとても楽しい週末でした。
  - 6回目：(中略) ChanとかHongとかKieとか多くの人たちがあなたを恋しかったです。

# 教師によるフィードバックが気づきを促した場合

- こうした誤用に関しても教師によるフィードバックは行われるため、結果的に教師と学習者間の相互作用は、形容詞の正しい活用法の習得に大いに役立つのである。

# 教師によるフィードバックの効果が可視化されない場合

- JFL教室環境は多人数の学習者で構成されることが多く、誤用フィードバックには現実的な限界がある。
- 詳しく説明すべきところで、正しい使い方を提示するだけで終わってしまうケースも多々ある。
- そのような背景の中で、「学習者の誤用」→「教師のフィードバック」→「学習者の誤用」という、教師によるフィードバックの効果が見られないパターンが6名に散見された。

# 教師によるフィードバックの効果が可視化されない場合

- その内訳は、連体形が3名、テ形が2名、過去形が2名、連用形が1名であった。
- 今回の分析結果を通して、教室現場における指導項目を改めて提示する必要があると思われる。

# 教師によるフィードバックの効果が可視化されない場合

- また、大学教育は1学期という限定された期間で行われることから、残念ながら18名中14名の学習者において、**誤用フィードバックによる効果の有無が不明**であった。
- これらに関しては、中級作文の授業などで追跡調査を行う必要があると考えられる。

# 教室指導に応用できる提言

- JFL教室環境をJSL環境により近づける。
- 多人数学生に合った誤用フィードバックの環境を整えるべき。
- 初・中級作文辞書を新たに開発する必要がある。

# JSL環境により近づける。

- JFL教室環境におけるイ形容詞の使用の特徴は、JFL環境の最大の短所である**日本語の自然なインプットの不足**が影響していると考えられる。
- その問題点を改善するためには日本人との会話の機会を設けることが必要であるとよく言われるが、現実的に、授業中に実行することはかなり難しい。
- その補完策として、**韓国人教師が日本語で専門の授業(日本語学・日本文学・日本文化)**を進行し、JFL教室環境をJSL環境により近づけることを提案したい。

# 誤用フィードバックの環境を整えるべき

- 教師による誤用フィードバックは学習者の言語習得に大きな影響を及ぼしているが、フィードバックがあっても直らない場合もある。
- これは授業時間の制約およびJFL教室環境が多人数の学習者で構成されている場合が多いことから、**教師と学習者の相互作用の不足**に起因するものであると考えられる。

# 誤用フィードバックの環境を整えるべき

- このような教室環境を改善するためには、**円滑な相互作用が可能となるシステム**を構築する必要がある。
- 一例として韓国の多くの大学には学習管理システム(Learning Management System)が導入されているため、それらを活用し、オフラインの対面授業とオンラインのeラーニングの混合型の**ブレンディッドラーニング(blended learning)**で問題を最小化することができる。

# 初・中級作文辞書を新たに開発する。

- 作文を書く際に参考にできる専門図書が少ないという現状がある。
- 学習者が頼るのは辞書、もしくは文型中心の教材である。
- **品詞別に多様な活用形**が提示されており、作文を書く際に役立てることができる**初・中級作文辞書**を新たに開発する必要があると思われる。

# 参考文献

- (1) 小笹克行 (2004)「初・中級レベルの日本語学習者が望む作文指導-韓国の大学でのアンケート調査から-」『日語日文』23, 韓国:大韓日語日文学会, 95-108.
- (2) 木下謙朗 (2005)「韓国人日本語学習者の作文に見られるイ形容詞の誤用-述部にあらわれる活用形を中心に-」『日本学報』65, 韓国:韓国日本学会, 253-262.
- (3) 坂本正 (2002)「誤用フィードバックと日本語教育」『日本文化学報』14, 韓国:韓国日本文化学会, 1-10.
- (4) 迫田久美子 (2001)「学習者の文法処理方法」『日本語学習者の文法習得』大修館書店
- (5) 田代ひとみ (1995)「中上級日本語学習者の文章表現の問題点-不自然さ・わかりにくさの原因をさぐる」『日本語教育』85号, 25-37.
- (6) 長友和彦 (1993)「日本語の中間言語研究」『日本語教育』81号, 1-18.
- (7) 野田尚史・迫田久美子・渋谷勝己・小林典子 (2001)『日本語学習者の文法習得』大修館書店
- (8) 原田三千代 (2006)「中級学習者の作文推敲過程に与えるピア・レスポンスの影響-教師添削との比較-」『日本語教育』131号, 3-12.

- (9) 渡辺亜子 (1996)『中・上級日本語学習者の談話展開』 くろしお出版
- (10) 張正來 (2005)「日本語 誤用に関する一考察 ―作文指導 修正作業を中心に―」『日本語文学』29, 韓国:日本語文学会, 159-184.
- (11) 鄭起永 (1998)「初級段階の日本語の作文指導に関する研究」『外大論叢』18-1, 韓国:釜山外国語大学, 37-70.
- (12) 趙南星・佐々木瑞貴 (2002)「日本語上級学習者の作文に見られる形態上の誤用」『日本語教育研究』65, 韓国:韓国日語教育学会, 185-208.
- (13) 曹英南・李徳培 (2007)「初級日本語学習者の談話構成誤用に関する研究」*Foreign Language Education* 14-4, 韓国:韓国外国語教育学会, 351-363.
- (14) 曹英南(2008)「韓国人初級日本語学習者の談話構成誤用形式の変異性」『日語教育』46,韓国:韓国日本語教育学会, 61-78.
- (15) 曹英南 (2014)「韓国人初級日本語作文における教師と学習者間の誤用フィードバックのプロセス」『日本文化研究』49, 韓国:동아시아일본학회(東アジア日本学会), 327-344.

- ◉ 감사합니다.
- ◉ ご清聴ありがとうございます。